

前回（令和元年度第3回大船渡市協働のまちづくり検討委員会）のふりかえり

#### 事務局説明

##### ○ 今後の地区のあり方について

- ①地区の目指す姿
- ②意識醸成と活動参加への働きかけのプロセス

#### ○ 協議「今後の地区のあり方について」

##### 〔地域力の向上について〕

- ・ 「地域力の向上」は市長の市政目標の一つに掲げており、住民だけではなく、行政、企業団体なども含めた大船渡市全体の目標である。
- ・ 協働のまちづくりという仕組みも「地域力の向上」という目標に合致するといえる。

##### 〔地区への説明について〕

- ・ 協働のまちづくりに向けた取組の必要性を地区公民館長・主事が理解し、館長・主事から地区住民に説明し、それを市がサポートする方が地区住民へのアプローチとしては望ましいのではないか。
- ・ 一般の人を巻き込むには、説明はわかりやすく簡潔に、平易な言葉で短めにするのが大切だ。
- ・ 地区が変わらないと地域力が向上しないということだけではなく、行政も変わるのだというところを丁寧に伝える必要がある。

##### 〔「協働」について〕

- ・ 「協働」の定義や考え方について、わかりやすい整理が必要である。
- ・ 「協働」の言葉の捉え方があやふやなので、この言葉が独り歩きしないようにした方がいい。

##### 〔助け合い協議会について〕

- ・ 協議会長や生活支援コーディネーターに依存している現状がある。研修会の開催を通して、広く市民に趣旨の理解や、先行事例を勉強してもらうなど、次の人にバトンを渡せるような体制を作ることができるよう市としても取り組んでいる。
- ・ 地区運営組織と助け合い協議会を一緒にしていいのか、市としての調整が必要だと思う。
- ・ 助け合い協議会への委託料の財源は介護保険であるため、地区運営組織の中に助け合い協議会を入れるとなった場合に、助け合い協議会の事業が他の領域と重なるときには、どこまで許容されるか研究が必要である。
- ・ 財源の関係から「地区運営組織の福祉部会が助け合い協議会である」という整理の方法がある。

### 〔地区内の組織との関係について〕

- ・ 地区運営組織を形成する際、公民館運営組織の中身を変えませんかと言った方がいい地区と、公民館は公民館なので別に新しく組織を作りませんかと言った方がいい地区がある。
- ・ 地区内の全団体を再編するやり方と、各団体は存続するが、それぞれがゆるやかに連帯して組織を形成するやり方がある。どのようなやり方とするかは、地区の現状に合わせて選択することとなる。
- ・ 地区内の既存団体と整合を取りながら、地区の実情に応じ、地区全体を俯瞰できるような地区運営を目指した方がいい。

### 〔進め方について〕

- ・ 地区運営組織立ち上げに向けた動きを全地区一斉に進めることは難しい。先行して実施できる地区を調整し、先行地区におけるプロセスや成果を公開し、それぞれの地区に合わせたやり方で進めてほしい。
- ・ 地区公民館の名前を変えればよいとか、行政の仕事を肩代わりさせられるととられないうように、研修会などを通して、地域づくりを進める理念や目的を多くの人に共有する必要がある。
- ・ 地域への意識付けと、話し合いをベースにいろいろな人に参画してもらいながら、各地区にあった方法で地区運営をしてもらえるような仕組みの検討の両面で取り組む必要がある。